

市町村名	伯耆町
取り組みの名称	まちぐるみで取り組む教育の推進 ～家庭、地域と連携した食に関する取り組み～

### 1 ねらい

伯耆町は豊かな自然に恵まれ、多くの地元食材を使用した給食を提供し、それらを生かし学校と連携した取り組みや食に関する指導を行っているところである。しかし、数年前のコロナ禍の影響もあり、近年、地域や家庭と連携した食に関する取り組みが少なくなっていることが課題であった。そこで、学校、地域、家庭と連携し地域全体で様々な人と関わりながら食育活動をすることで児童生徒の食に関する自己管理能力を育成したいと考え本取り組みを実践した。

### 2 日時、場所、対象

令和6年度に伯耆町内で行った。

### 3 具体的な取組内容

#### (1) 親子料理教室

6月8日(土)に、町主催で町内児童生徒、保護者20名を対象に親子料理教室を行った。今回は学校給食のメニューも取り入れ、「ごはん、ドライカレー、りっちゃんサラダ、コーンスープ、ヨーグルトクリーム  
のトライフル～旬のメロンバージョン～」の調理実習を行った。



#### (2) 給食試食会

コロナ禍でしばらくできていなかったが、町内の小学校で、今年度久しぶりに給食試食会が行われた。給食試食の後、栄養教諭による食についての講話を行った。

#### (3) 保育園との連携

保育園の献立検討会(参加者:町管理栄養士、園長、各保育園の給食担当と調理員)に参加し、献立内容、給食の量、アレルギー対応など情報交換を行った。

#### (4) 給食週間中の交流給食とケーブルテレビ放映

給食週間に、生産者を学校へ招待し、交流給食を実施した。町企画課や地元ケーブルテレビと連携し、この様子も含め、給食の地産地消の取り組みや、給食センターのこだわりについてケーブルテレビで放映し、啓発をはかった。



<町報 2024年11月号>

#### (5) 町報への記事記載(朝食について)

伯耆町教育振興会学校保健部会(主に各学校養護教諭、教諭、栄養教諭が所属)では、伯耆町内児童生徒の朝食欠食率や野菜の摂取不足が、度々課題としてあがっていた。これらの課題については、児童だけでなく、家庭や地域にも啓発していく必要があることから、町報11月



号と3月号に朝食についての記事を掲載し、啓発をはかった。

#### 4 成果と課題

親子料理教室は、町主催の行事であるが、昨年度から栄養教諭が参加している。調理メニューに給食メニューを取り入れることで、給食の味を保護者に味わってもらえた。「普段家では食べない豆や野菜も食べていたので、家でも作ってみたい」、「手早くできて、彩りもよかったのでまた作ってみたい」などという感想も多くあり、家庭での調理実践の意欲の向上につながった。

給食試食会は、保護者に給食を作る様子の映像も見ていただいたことで、給食についての理解を得ることができた。「給食センターの先生の話の聞いたり、映像をみたりして、役割や目標を考えられていることがよく分かりました。」などという感想も多くあった。今後も、機会をとらえて、保護者に給食について理解を深めてもらうとともに、望ましい食生活につながる啓発を行っていききたい。

給食週間中には、交流給食を実施し、児童生徒が生産者と触れ合うことで、給食や地元食材を身近に感じることもできた。また、地元ケーブルテレビと連携することにより、取り組みを広く町民にも知っていただくことができた。

保育園献立検討会には、町栄養士と連携をとったことがきっかけで今年度より参加しているが、保育園の給食の献立内容や実態を共有することが、学校給食の献立作成に生かされている。その他にも、検討会で新1年生のアレルギーの様子について事前に情報を得ることができることから、小学校でのスムーズなアレルギー対応の実施につながっている。今後は、この機会を活用し、保育園との共通献立を提供するなどして食の啓発を図っていききたい。

#### 4 まとめ

今年度も、様々な取組を行い、各行事の事後アンケート結果や児童の様子などから、食への関心が高まっていることがうかがえた。しかしながら、教育アンケートや給食時間の様子を見てみると、児童や保護者の意識や行動が十分に変わるとはいえない。今後は、実践に生かすための効果的な方法を検討していく必要がある。今後も、学校だけでなく、地域や家庭を巻き込んだ食育を推進するため、今年度の取組を工夫改善し、様々な人と関わりながら継続していくことで、食育を推進していきたい。